

[6]



第42回東日本選手権大会

6月11・12日 / 新狭山グランドボウル

190チームが出場した『第42回東日本選手権大会』は、予選1回戦を1401で首位スタートの札幌市役所(地主英則・高橋浩一)を、ディフェンディングチャンピオンの川崎中央はりきゅう院A(小林庸祐・荻原宏一)が追

走、予選からマッチゲームの様相だった。予選3回戦でややペースダウンの札幌市役所を、川崎中央はりきゅう院Aが5ピン逆転して決勝を迎えた。

決勝では川崎中央はりきゅう院Aが1305に対し、札幌市役所

札幌市役所が6年ぶりV奪還

が1397を打ってトータル5588で、6年ぶり3度目の優勝を飾った。川崎中央はりきゅう院Aは87ピン及ばず連覇を逃した。決勝で1446を打った警視庁A(本望工・井上信良)が5281で、予選の12位から3位に食い込んだ。



▲東日本選手権入賞チーム



第16回中日本選手権大会

5月28・29日 / ジャンボボール

118チームで争われた『第16回中日本選手権大会』は、予選2回戦まで快調にトップを走っていたセイコーエプソンC(中村旬一・山本美範)が、3回戦もトップを守ったものの、1205と急ブレーキの間に、河合選手がパー

フェクトをマークした菊地電設B(鈴木貴広・河合貞治)が13ピン差の2位に迫り、前年優勝のエスキモーA(酒井宏・酒井努)もトップから28ピン差の好位置につけていた。

決勝では菊地電設Bが、河合

菊地電設が混戦を制し初優勝

選手のあわや2個目のパーフェクトかと思われる活躍もあって、1432と伸ばし、トータル5469で初優勝を飾った。セイコーエプソンCは1311と伸び悩んだが、5361で2位を守り、連覇を狙ったエスキモーAは5351で3位にとどまった。



▲中日本選手権入賞チーム



第42回西日本選手権大会

6月11・12日 / 丸亀スターボウル

『第42回西日本選手権大会』は、101チーによって争われた。予選1回戦を1470とスタートダッシュを決めた明石フタバボウルA(岡本敦・大場健一)が、3回戦でも1433を打って、トータル4206で2位のハッピー薬局

A(大丸マユミ・廣瀬徳枝)に173ピンの差をつけていた。

明石フタバボウルAは、決勝は1276と伸び悩んだものの、貯金がものをいってトータル5482で、余裕の優勝を飾った。3977の3位で決勝に進んだHDC-E

明石フタバボウルが独走でV

(菊井謙太郎・名和政宏)が1339と伸ばして5316で2位に入り、HDC-B(三角安弘・大朝初美)が5280で3位、4位にもHDC-F(三田尻卓也・松下昭史)が5250で続き、ハッピー薬局Aは5244で5位にとどまった。



▲西日本選手権入賞チーム